

平成27年度 学校自己評価システムシート（山村学園高等学校）

目指す学校像	校訓「質実・英知・愛敬」を踏まえ、人格の完成を図るとともに、次代を担うことのできるたくましい人材の育成を図り、生徒・保護者の期待に応えることのできる学校を目指す。
--------	---

重点目標	<p>1. 学力の向上と自主自立の精神を養い、より豊かな人間性を身につけさせるために、「キャリア教育」と「7つの習慣J」を融合し、組織的に取り組む。その中で、自己の在り方や生き方を考え「生きる力」を育み、たくましい人材を育成する。</p> <p>2. 生徒一人一人の能力や個性を生かした進路実現を目指して、進路部・各教科・各学年の連携強化を図り、生徒の学習意欲や進路意識を高め、全生徒の進路(進学)実現を目指す。</p> <p>3. 安全安心の環境づくりを図るとともに、生徒指導を徹底し、規律ある学校生活を確保する。</p> <p>4. 開かれた学校づくりを推進し、外部有識者の委員会、保護者・同窓生と一層の連携を図る。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	5名
学校関係者		5名
事務局(教職員)		4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
27 年 度 目 標				27 年 度 評 価 (3 月 25 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性や生きる力を育み、たくましい人材の育成を図る。 文武両道を目指し、活気ある学園生活を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「7つの習慣J」の定着。 キャリア教育の充実。 進路意識の啓発。 学校行事、部活動の充実。 国際理解教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「QU」と「ココカラ検査」を利用したHR経営。 2学年は「夢ナビ」へ参加(2年生)。 キャリア教育と「7つの習慣J」から明確な目標設定。 「職業人に聴く」、「卒業生に聴く」等の実施。 部活動での成果。 NZ姉妹校との相互交流。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間性豊かで他を思いやる生徒が増えたか。 将来の目標・目的を明確に持った生徒が増えたか。 協調性を持ち、自主的に日頃の学校生活や各行事に参加する生徒が増えたか。 部活動の加入率(目標値は80%)が上がっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学を目指す生徒の増加 1年上半期 40%→下半期 50% 2年上半期 73%→下半期 77% 3年上半期 75%→下半期 72% 皆勤率 1年 63%, 2年 63%, 3年 40% 部活動加入率 70% 全国・関東大会出場8部活 第28回国際交流10名参加(7月) 16名来校(9~10月) 	A
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の能力や可能性を引き出し、全生徒の進路実現を目指す。 教員の資質の向上と、教科指導力、学級経営能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導、授業改善への取り組み。 ICT教育への取り組み。 進路指導の充実と生徒の進路希望の実現。 生徒の学力向上対策。 家庭での学習時間。 授業日数の確保。 大学受験体制の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の研究授業を実践する。 進学受験指導研修、教科研究会等への参加。 進路ガイダンス、「進学相談会」、「大学出張講義」等の充実。 進学ゼミ・長期休業中のゼミ、補習などの工夫改善。 学力向上プロジェクト会議の取り組み。 進路希望調査を実施する。 授業評価アンケートの実施。 学校満足度調査の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力が向上(校外模試の結果から)したか。 現役進学率 95%とし、内大学進学率は80%とする。 生徒の進路意識の向上と進学ゼミ参加率の向上。 与えられた家庭学習時間の実行率50%の達成。 センター試験の受験率。 	<ul style="list-style-type: none"> 現役進学率 93.3% 大学進学率 74.1% ゼミ参加率(通年) 1年 72%, 2年 62%, 3年 58% 家庭学習時間 「平日0時間」の生徒は各学年とも2%減少 センター試験受験率 100% 授業評価アンケート(10月実施) 学校満足度調査結果(1~2月実施)のHP掲載 学力向上プロジェクト会議(毎月曜実施)→新学習支援プログラム検討→活用導入 	A
3	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な教育環境のもとで、生徒指導の徹底を図り、規律ある学校生活を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの撲滅と不登校生徒の減少を図る。 服装指導、出席・登校指導。 危機管理意識の啓発 災害時、緊急時の緊急対応マニュアル、連絡メールの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングや個別面談の充実。 いじめ調査の実施。 教室の照度・二酸化炭素濃度の点検。 「携帯安全教室」の実施。 職員へのAED講習会の実施。 クラスごとの平均皆勤率50%を目指す。 防災訓練、安全点検の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の人数やカウンセリングを受けている人数とその理由。 いじめ等を感じている生徒の人数の変化。 連絡メールの配信。 諸行事の実施状況把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内カウンセリング 生徒・保護者対象に毎週火・水・木曜日実施 いじめアンケートを実施(9月) 連絡メールの配信 25件 防災訓練(4, 5, 10, 12月実施) 防災グッズ購入→卒業生へ配布 	B
4	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校を目指し、地域、保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を推進する 地元中学校、関係教育機関等との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの管理と活用。 保護者対象学校公開、保護者会の充実。 オープンキャンパス・部活動体験・学校説明会や個別進学相談会の実施。 中学校への出前授業の実施。 塾等への説明相談会の実施。 学警連、川越警察署との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの工夫改善。 6月に保護者対象学校公開を実施。 保護者面談の実施。 文化祭・体育祭など各行事の案内。 中学生の上級学校訪問受け入れや中学校への出張授業や部活動等での交流。 後援会、同窓会活動の充実。 朝の登校指導、交通指導等、校外補導の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの見易さと、情報の即時公開性、週単位での更新。 学校ホームページでの動画の配信。 後援会の活動状況。 同窓会の活動状況。 諸行事の実施状況把握。 	<ul style="list-style-type: none"> HPアクセス数 約74万回 HPほぼ毎日更新 HP動画配信(山学チャンネル) 総会・理事会・大学見学会・研修旅行・諸行事への協力 校外補導(5回)、登校時交通指導の実施 携帯安全教室(1・3年6・7月) 非行防止講演会(1年6月) 上級学校訪問 26校 出前授業 15校 学校公開参加数(6月) 1年144名, 2年66名, 3年27名 	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年3月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 「7つの習慣J」を週1回実施する試みは評価できるが、深い理解と定着のためさらなる工夫が必要である。 夢ナビへの参加・「職業人に聞く」・「大学生に聴く」などの催しは生き方を模索するうえで非常に有効であると考えられる。 大学進学率の上昇や、国公立など上位大学への合格者数が数値目標を達成していることは大いに評価できる。 大学入試改革に向けた「学力向上プロジェクト会議」を中心とした取り組みには期待できる。一層の情報収集と工夫を望む。 防災訓練・職員へのAED講習会・携帯安全教室の開催や、連絡メールの配信は安全安心な環境づくりに有効であると考えられる。 学級満足度調査(QU)・いじめアンケートの実施や担任による面談の実施など個々の生徒の状況把握によく努力している。 アクセス件数の多さは、見やすく、魅力的なHPづくりに努力していることと表れであると考えられる。 学校公開日の保護者来校者数の増加は学校への関心・期待の表れと受け取れる。 駅前開発にともなう通学路の変更などについては地域・行政の力を借りて生徒の安全確保に一層の努力してほしい。